
「お嬢様の憂鬱」 × 「お嬢様と夜空」

瑠紀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「お嬢様の憂鬱」×「お嬢様と夜空」

【Nコード】

N3211D

【作者名】

瑠紀

【あらすじ】

「お嬢様の憂鬱」と「お嬢様と夜空」のコラボ作品！どたばたしすぎてマス。

第1話 料亭に行こう！（1）

（溜斗視点）

「お腹空いたんだけど」

急に璃紗さんが言った。

「じゃ、どっかの料亭行きますか？？」

暇なので料亭に行こう。

僕はカバンに無造作に200万ほど入れた。

ま、これで足りんじゃない？

（料亭）

「すみませんお客様！！！！紀奈紅様がどうしてもこのお部屋をお借りしたいとの事で……」

ハ？何言ってるんだよ？

「何言ってるのよ貴方。私達は予約していたのよ？」

璃紗さんのいう通りだ。

「す、すみません！！！！私どもの手違いで……」

「何を言っているのかしら。まあ、美人な人。いっしょにお食事されませんか？」

ん？だれだこの小学生ご一行。

つか、璃紗さんをほめたら……

「あゝら可愛いわ。こんな妹が欲しかったのよ。お姉さまっていいよお」

璃紗さんをほめると変態オヤジ化してしまう。

だからほめなくて欲しかった・・・

「いいですよ。お姉さま。一緒に食べましょ。」

「ええ」。あらそちらの二人の男の子達も可愛いわね。」

む。僕の方が・・・って僕、何思っちゃってるんだ。まるで僕が璃紗さんのことを・・・

（紀奈紅目線）

「今日、サボって違うところでご飯食べない？きなちゃん」

・・・それっていけないんじゃない？

舜斗が行くなら行くけど。

「舜斗も行く？」

「うん、今日の給食、嫌いだし・・・行くか！」

「やったー！」

雪ちゃんがピョンピョン走り回ってる。

舜斗が行くならいいか・・・

私は、携帯を出す。

ブルルルル

「ガチャ・・・はい、鹿王院です」

「じいや？今日、あそこに食事しに行きますよっ。」

「はい、今すぐ手配いたします」

プープープー

私は、携帯をとじる。

「行こ」

雪ちゃんと、舜斗は同時に答えた。

「どこに？？」

私は、口に指を当てて、

「秘密！」

と言った。

料亭

「いつてらっしゃいませ、お嬢様」

私と雪ちゃんと舜斗は、車から降りる。

「すげー！こんな所初めて来た！」

「僕は、何回も来たことあるけどね」

「どういことですか？あの部屋がとれないなんて！私、あそこで食べたいんですの！」

舜斗が来てるんだもの…。

やっぱり、最高級のあの部屋じゃないと…。

「申し訳ありません…紀奈紅様…」

「知りませんっ！契約を止めさしていただくわよ！」

「わあ…紀奈紅、性格変わってるよ…」

「きなちゃん、以外にSだからね。舜斗の前ではMだけど」

「え？なんか言った？」

「何も」

舜斗と雪ちゃんがゴチャゴチャ言ってるけど気にしない。

「と・に・か・く、私はあそこの部屋がいいんです！」

仲居さんが、うるたえる。

「ちょ…ちょっとお待ち下さい…」

もう、嫌！

「紀奈紅…」

「私達は予約していたのよ!？」

ん？だれの声？

わあ…きれいな人…。

「何を言ってるのかしら？まあ。綺麗な人。一緒にお食事しません？」

すると、その人は、ピヨーンと飛び上がった。

な…何????

（溜斗視点）

な、何が起こってんだよ？

あ、てかさ…。

「……俺の親父の経営してるとこのひとつなんだけど…」

「ええ〜!!!!なんでもっと早くきづかなかったの?」

だって今きづいたんだもん。

「お、お坊ちゃま！？すみません。私まだ新人なもんで気づきませんでした！！」

いや・・・いいんだけどさ・・・自分で新人って言っなよ・・・。

「むかつと来ましたわ。もうこの料亭は売り払います！！！！！瑠斗、文句ありませんね！？」

おいおい・・・ま、いいんだけどさ・・・

「もしもし、お父様？いいですね・・・ええ。むう・・・分かりましたわ。」

なんか、ケータイで電話報告してるようだけど・・・

「ふう・・・もう売り払う予定が付いていたそうなの・・・」

さすが変人親子。

あ、ちなみに親は俺の親ね。

「なあ、この人達・・・ぜったい普通の人じゃないよね・・・」

その言葉に全員がうなずいたのは間違いない。

そんな事にも気づいてない瑠斗達は・・・

「新人ちゃん！トリュフチョコと鰻鱈とマロングラッセ持ってきて」

「璃紗さん・・・それ8割が定番のおやつじゃないですか・・・」

なんていつてるし・・・

「いや定番じゃないから」

なんてつつこみはどこから？・・・

（雪ちゃん視点）

「じゃあ、僕はきなちゃんと同じの！」

僕は、きなちゃんと同じのを頼んだ。

だって、きなちゃんのが好きなんだもの・・・

「いいよ。雪ちゃん！」

きなちゃんが、ニコツと笑って言う。

可愛い・・・

キスしたいくらい。

舜斗は、いいよなきなちゃんに好かれてて。

「じゃあ、どれにする？」

きなちゃんが、僕にソツと寄り掛けてくる。

わわわわわ！恥ずかしいよ！

でも…襲いたい…

「あらあら、あの子真っ赤よ。可愛いわね」

一緒になった綺麗な女の人が言う。

あれ…？この人どっかで見たような…。

気のせい…？

「…っちゃん…雪ちゃん！」

「はい！？」

僕は、きなちゃんに返事する。

「どれにするの？？」

僕達の唇と唇が近い…。

不用心だなあ、きなちゃんは。

可愛いんだから、用心しないといけないでしょ？

「うーんと…じゃあ、コレ！」

僕は、でたらめに指す。

きなちゃんと一緒なら何でもいいんだ

「オレもそれで」

舜斗が言う。

チッ！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3211d/>

「お嬢様の憂鬱」×「お嬢様と夜空」

2010年10月11日04時12分発行